

■ JUASが「企業IT動向調査2025」を発表

「企業IT動向調査」は、ITユーザー企業のIT動向を把握することを目的に、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）が1994年度から継続して実施している調査である。今回発表された「企業IT動向調査2025」の調査期間は2024年9月から10月、東証上場企業およびそれに準じる企業の計4,500社を対象に実施し、981社より回答を得て集計したものである。

今回の調査は「今こそ問われるIT部門の真価と進化」をテーマとし、IT部門の対応領域が格段に広がる中、より効率的かつ高度な業務遂行と、新たな価値創出に向けた組織進化のあり方を探る調査となった。

まず、経年調査しているIT予算の増減を見ると、多くの企業が2025年度もIT予算を増加させる見通しである。IT予算を前年より「増加する」（予測）と回答した企業は全体の49.5%に達した。「変わらない」と回答した企

業を含めると91.1%となり、IT予算を減少させる企業は極めて少ないことから、拡大傾向が続いている（図1）。

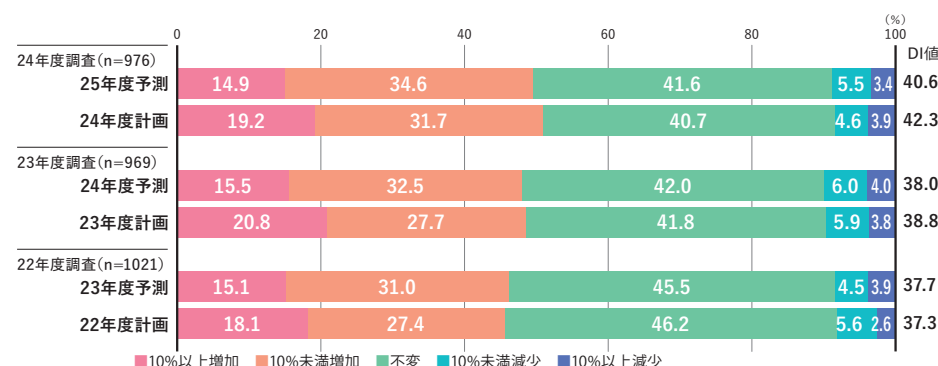
「増加する」割合から「減少する」割合を差し引いた指標（DI値）は、2025年度予測で40.6ポイントとなり、昨年の38.0ポイントから微増、予測のDI値としては過去10年で最高値を更新した。

IT予算の重点投資領域として、中長期的な経営課題を聞いたところ、昨年に引き続き「業務プロセスの効率化（省力化、業務コスト削減）」、「セキュリティ強化」、「ビジネスモデルの変革」が上位に選出された。これらの課題に対し、多くの企業が生成AIを活用した業務効率化や付加価値創出を進めていることが、2025年版調査から明らかになった。生成AIの導入状況において、今回の調査で「導入済み」および「試験導入中・導入準備中」を合わせた導入率は41.2%に達し、昨年比で14.3ポイント上昇した（図2）。特に、売上高1兆円以上の企業では、「導入済み」が45.0%（2023年度）から73.7%（2024年度）

へと大幅に伸長し、「試験導入中・導入準備中」を含めると9割を超えた（図3）。今後は売上高1兆円未満の企業に幅広く浸透していくが注視される。

さらに、「言語系生成AI」の導入企業に対して効果測定を行った結果、「期待を大きく超える効果

（図1）年度別IT予算の増減



出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会「企業IT動向調査2025」

BluStellar

未来へ導く、光となる。

たくさんの選択がある。
そこに困難があるからこそ希望もある。
だから迷い、だから挑戦する。

私たちは、革新的な技術と、
それを支えてきた人々の経験や知識で、
あなたを導いていく。

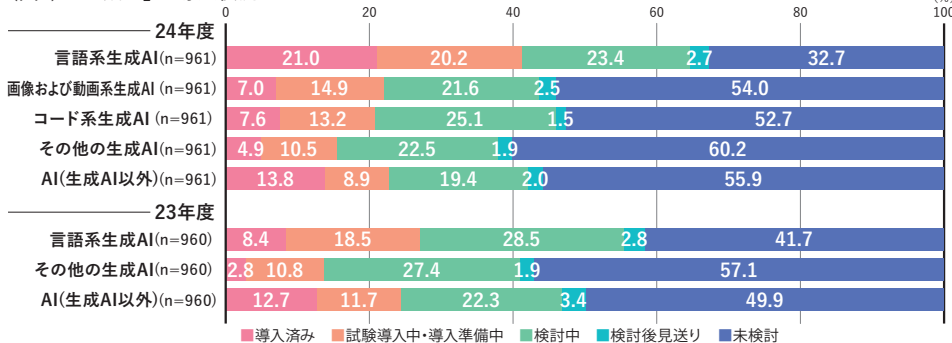
NEC \Orchestrating a brighter world

があった」(4.0%)、「概ね想定どおりの効果であった」(33.1%)、「期待値には至っていないが一定の効果はあった」(36.1%)を合わせた割合は73.2%に達し、多くの企

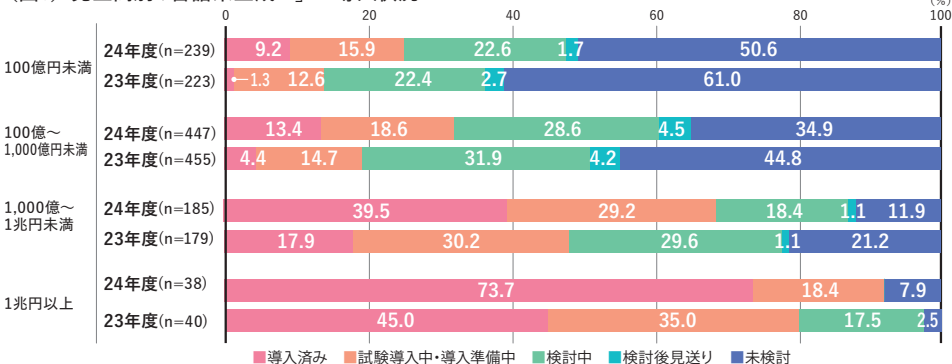
業が少なくとも一定の成果を実感していることがわかった(図4)。なお、「言語系生成AI」の導入状況を「導入済み」または「試験導入中・導入準備中」と回答した企

業に対し、導入時の効果測定について尋ねたところ、1位は「効果測定は行っていない」(59.8%)、2位は「削減できた労働時間の測定」(32.8%)となった。多くの企業で、生成AIの効果測定はまだ手探りの段階にあることがうかがえる。IT部門の役割が多様化・拡大する中、生成AIをいかに“武器”として使いこなし、組織の力へと変えていけるか。2025年、企業の競争力はまさに、IT部門の“真価”と“進化”にかかっている。

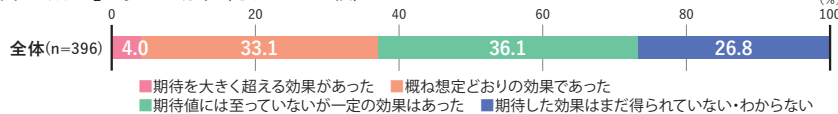
(図2)「生成AI」の導入状況



(図3) 売上高別「言語系生成AI」の導入状況



(図4)「言語系生成AI」導入の効果(想定との比較)



(図2～4) 出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会「企業IT動向調査2025」

HITACHI

Digital for all.

地球環境を守りながら、豊かな暮らしも実現したい。
両立の鍵は、デジタル。
デジタルの力を、すべての人たちのために。

詳しくはWEBページへ

株式会社 日立製作所 デジタルシステム&サービス統括本部

<https://www.hitachi.co.jp/dfa/a/>